第 7 回：

開催日時： 令和 8 年 3 月 19 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 18 分
出席委員： 三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、関山、
中垣内各委員、室谷議長

1. 教育・子育ての魅力化（放課後児童クラブの比較調査）
第 1 班より、石川県加賀市の「山代親子はぐねっと」の視察に基づき、民間主体の放課後児童クラブ運営の在り方が報告された。加賀市では単なる「預かり」を超え、学校でのストレスを緩和し、宿題やしつけを重視する「共育」の場として機能している実態が共有された。あわら市においても、支援員の処遇改善による質の向上や、保護者の負担軽減をどう実現するかが議論された。

2. 行政ヒアリング（子育て支援課）
子育て支援課より、一時預かり事業（「福育」「すみずみサポート」）の補助スキームや他市町との比較について聞き取りを行った。あわら市は一人親家庭への学習支援を民間委託するなどの先進性はあるが、金銭的な給付支援については他市町と「どんぐりの背比べ」状態にあり、利用者側が独自性を体感しにくい現状が確認された。

3. エビデンスベースの政策検証への移行
アイディアベースの議論から、成功事例の因果関係を解明する「エビデンスベース（証拠に基づく）」の議論への移行が提案された。人口増という数値目標だけでなく、関係人口の拡大や「人口減少下でも豊かに暮らせる」ための生活の質の再定義を行う重要性が共有された。

4. 今回出た主なアイディア・意見
・結婚・育児リスクの社会保障化： 若者が感じる結婚・育児への経済的リスクを、高齢者の「年金」のように社会全体で保障する視点を持つ。
・市民満足度の成果指標化： 施策の有無だけでなく、利用者の満足度や「シビックプライド（地域への誇り）」を成功の指標として設定する。
・因果関係の深掘り調査： 成功している他自治体の事例（奈義町等）を、単なる模倣ではなく「なぜ成功したか」という因果関係まで検証する。関係人口による豊かさの再定義： 定住人口増のみにこだわらず、あわら市に関わる人を増やし、限られた資源の中で幸せに暮らす方法を模索する。

人口減少対策特別委員会（要点筆記）

令和８年３月１９日（木）
午後１時３０分から午後３時３０分

議員　三上委員長、北浦副委員長、卯目、北島、南、野沢、関山、中垣内、室谷議長
欠席　なし
遅刻　なし
傍聴　なし
事務局　東局長、吉田補佐、中西主事

○　協議事項
（１）教育と子育ての魅力化について
（２）その他

○　協議事項
（１）教育と子育ての魅力化について

三上委員長　　グループ報告を各自お願いする。

南議員　　子どもクラブ（放課後児童クラブ）の在り様についての比較を説明。

北浦委員　　補足で、加賀市で２６箇所児童クラブがあり、いわゆるNPO法人や一般社団法人、保護者が運営しているところもあった。保護者からの苦情はあわら市は市役所に直接くるが、それぞれの運営主体に任せていると言っていた。市の方に苦情や相談が来ることはほとんどない。それぞれの運営主体で保護者と地元、地域の人と相談しながらやっているのではないかということだったので、地域に根差した子供クラブの運営をやっていると思った。それと南議員が言っていたが、学童クラブの例えば支援員の待遇的にも施設的にも、いろんな地域との連携の面でもいろいろ進んでいる。これが少子化対策にどのような影響ありますかと聞いたところ、特にそういう影響はないと思いますとスカッと言われたので、その二つが私としては非常に印象に残ってるというところです。

北島委員　　今調べたが、利用者が考える子供クラブは、まず、「預かってもらえる」、「料金」である。坂井市と料金の形態を比べると、坂井市は普段は4000円、夏休みは1万2000円、早朝が1回１００円、延長が30分100円である。確かに現状を見ると、あわら市が優れてるように見えるが、シダックスに頼ってるということは、人がいないっていうことだ。やっぱり料金を少し上げてもいいので、支援員を確保して、

まずは入れる体制をつくらないといけない。支援員が減ってくるのは、わかってるので、整えていかないとっていう個人的な意見である。

三上委員　人口減少って要は労働力がそもそも不足するので、そちら側の影響もすごいあるっていう意味ですね。

北島委員　都会では4年生問題っていうのがあって、小さい子を預からないといけないので、高学年は受け入れ拒否みたいな感じになってくる。そういうことをあわら市でさせないためにも支援員を確保するためにも、若干利用料金をいただいて、支援員さんの手取りを若干増やしていくように促していかないとあかんのかなって感じる。

卯目委員　芦原子供クラブですけど、芦原小学校に通う全体の子供たちから言うと、何割ぐらい預かっているんですか。

委員長　ちなみに僕も数年前に聞いたときは大体多いところは40パーぐらいになってると言ってましたんで、30%～40%の間でしょうね。

南委員　8月に行ったときには、もともとのいた人、引き続いているのが3人、シダックスの専門員が3人多分入っている。合計6人だから、芦原はこれからシダックスがやっていくんだと思うんです。これから専門員を入れて、ちょっと違うことをやっていくんじゃないかなと思ってます。

北浦委員　今まで金津の子供クラブというと安全な預かりっていうことになってるんですけど、しっかりとした支援員を置いてやる。しつけとかもやりながらみんな同じような共通意識を持ってやっていくっていうのがやっぱり学童クラブもそのような形でこれから運営していくべきだと思う。加賀市は1ヶ所で約1100万円出してて、それが26ヶ所あり、預かってる子供の数によっても、その金額的なものは変わってくるかもしれませんが、市としては投資をしてるっていうことなんで、何かあわら市として必要なことを考えていかないとあかんのかなというふうに思いました。

卯目議員　坂井市もそうやけど、見守りは教育委員会と違う。学校から子供が帰ってきて、例えば宿題とかするんかなと思ったらそうじゃないらしい。ただ預かるだけなんで、その中で働いてる人（芦原のことじゃない）は、そこでジレンマみたいなのがあるっていうのは言ってましたね。勉強は教えたらあかんってことはないかもしれんけど。家庭と、そこにいるときと子供が違うらしい。うち帰るとお利口さんで、そこにいると暴れるんかな。そういう家庭と預かりをやってる人たちとの間のコミュニケーションも大事っていうのは聞いてました。どこも、そういうのはあると思うんですけどその辺に心配りとかがあるといいかなっていうのは思います。

野沢議員　共働きが多い、っていうのが福井県なので、やはり働いているお母さんにとって、子供を迎えに行って、家に連れてきて、夕飯をしなきゃいけない。でも、連れて帰ってきた子供は宿題はしていない。宿題を見なきゃいけない。夕飯も作らなきゃいけない、家事もしなきゃいけないっていうのが同時にあるっていうのが、本当に過酷な時間帯だと思うんです。でも宿題を、児童クラブで見ていただけるっていうだけでも、

働いている母親にとったら、すごくありがたいことなんです。やはり安心して私達母親が帰ってきたときに、心穏やかに過ごせるために、やはり児童クラブっていうのは母親目線ですけれどもそういうところが住みやすいし、子供を育ててもらえる街だなっていう感覚になるんじゃないかなと思います。もし私があわら市とこういうふうに見てもらえる加賀市が隣同士でありますってなったときに、その差を見るかなって思ってしまいます。なぜなら、クタクタになって帰ってきている状態の中で、心穏やかにその夕方の時間を過ごせる時間はプライスレスなんですよね。放課後子どもクラブだけど、保護者に対する見せ方とか、そういうのを考えてほしいなと思います。

南委員　本質的に大事なのは、子どもの時間を有益に過ごさせて成長させるかという視点でみると、この「山代親子はぐねっと」の取り組みは素晴らしいなと思います。まず子供が育つ、それから親っていう順番もあるんですけど、もう一つ印象に残ったのが、「親子はぐねっと」の代表者は、子供は小学校からすごいストレスを持ってここに来るんだと言っていた。そのストレスを私達は緩和して、家庭に帰す。宿題をまずさせるというのはルーティンで一番にあるんです。そのさせ方が親子はぐねっとの方はきちっとしつけの中で大事だって位置づけている。こっちもそうなんだろうけども、やはり預かりという視点が最初に来てるのでルーズなところもあるし、宿題しないで跳ねてる子もいる。ここは一斉に座らせてやらせる、っていうしつけというか、生きていく上でこういう順番でやると、よくなるだろうねって、あなたたちもすごい有益な時間を持ってるでしょっていう考え方でやっている。そこが全然違う。親子はぐねっとが終わった人は当然家庭に帰るともう学校のストレスがかなり緩和されてるので、いい状態で帰るんじゃないかなと思います。だから、これは広い意味では共育なんじゃないかなという感じを受けました。

副委員長　親子はぐねっとの利用者が増えてるってことを聞いたんですけど、例えば帰りに熊とか防災的な観点からも、学校から直接学童クラブに行けば安全だし、帰りは保護者の方が迎えに来るから、安全面も考えて子供が増えていることもあるかな、というようなことをおっしゃってました。

卯目委員　学校からどうやって行くのか。

副委員長　近いところにある。

卯目委員　帰りのお迎えは保護者がいくのか（はい）

委員長　観点として、例えば放課後子供クラブはそうやって教育効果も出しましょうっていうのは OK であり我々としてはそういう意見っていうのは全然いいと思う。一方で放課後子供クラブじゃない子たちもいるんです。だから、そこが一体となってみんな幸せになるような形じゃないとなと思ったりはします。つまり入れる人と入れない人が出てくるし、だからあわら全体として放課後をどうするのかみたいなことだろうなとは思っているので、そこの観点を忘れずに議論したいなとは個人的には思います。

南委員　　この比較して出した資料を、子育て支援課には出していない。資料だけコピーしてあげたんですけれども、芦原の子育て支援課も一生懸命やってるけど、今ちょっと行き詰まっていて、民間になったっていうところが正直なところだと思うんです。今後どうするのかというのは民間にちょっと期待しつつ、決して芦原にすぐこういうふうにやって欲しいっていうつもりは僕も持ってない。ただ、こういうのが理想だなというふうに思っています。

北島議員　　南議員が教え育てると言いますけど、そんなところまであわら市に求めたらあかんのじゃないかなとは僕は思ってます。やっぱりきちっとその環境を整えていく。そもそも継続していくことが大事。

三上委員　　その前提があってということは間違いないですよね。だからそこは議論すべきでしょうね。やるに越したことないんで。何とかしたいけどやっぱりその前提として安定的な供給が揺るがないっていうのがまず重要なんでね。

子育て支援課入室

１４：００ごろ

高橋課長　　子育て支援課説明

関山議員　　福育さんは実際利用してみて、とてもいい。シッターさんも経験ある方だし、ちゃんと見つかるのもいい。予約が 1 週間前からなので、その辺が対応してもらえないのが残念。

三上委員長　　市の持ち出しがどうこう言っていた部分が分からなかった。

西田補佐　　一時預かりっていうのが、うちですと 2 パターンありまして。まずシルバーがやってるこのチラシのやつが一つ、もう一つは県が委託先を決めて、県全域でやってるこの福育さんっていうのがあります。シルバーの一時預かりっていうのは複合施設の 2 階でやってるやつで基本的に利用時間一時間 350 円なんですけど、実際シルバーからうちに来る請求はシルバーさんの単価で請求がきます。その単価のうち、半分が県の補助金である。福育さんは例えば平日の 18 時までは 2,000 円ってなってるんですけど実際は 500 円です。このうち 1,500 円は県と市で補助を出してるので、利用者の方は 500 円となります。 2 時間だったら利用者は 1,000 円での残り 3,000 円のうち市としては 1,500 円を負担している。

髙橋課長　　この 2,000 円って書いてあるのは、まずこのアイビーエージェントの方が 1 時間 2,000 円ですとうたっております。次に行くのがお住まいの自治体で、すみずみ子育てサポート事業をやっているところがあれば、そちらの方の割引補助が使える。どの市町でもすみずみ子育てサポートをやっている。今 70 時間っておっしゃったのも、すみずみ子育てサポート事業にのる場合は 70 時間が補助の限度です。もしも 70 時間を超えた人は 2,000 円になるっていうことです。うちのすみずみ子育てサポート事業の金額、350 円は安すぎるだろうっていうことで、元々の考え方が違いまして、福育さんだと、1 人の福育さんが自宅に伺う。1 人分の人件費となる。うちのシルバー

がやっているのだと認可外保育施設でして、これをやるに当たっては、最低2人の保育士を用意しないとだめ。そういう資格を持った人っていうことで、1人預けたら1時間、2人分のシルバーの人件費がかかる。でも2人預けても2人分、3人預けても2人分っていうことで、うちのすみずみ子育てサポートですと利用者が時間が被れば、うちとしてはコスパが良い利用の仕方になるという形になります。保護者の負担金はなかなか変動させづらいんで、基本的には350円にしている。この350円といいますのは、昔はシルバーの場合は1時間700円で350円を市が負担しますっていう利用のスキーム、一時預かりがあったという経緯があって、利用料自体は上げれないっていう流れなのかなとは思ってます。

北島委員　家に来てほしい人は、福育さんやし、来てほしくない人はすみずみってことだ。

関山委員　認知度がまだまだない。しかも他のパンフレットでは1時間500円とか書いてあるやつもあったはずです。

髙橋課長　これ実際にその補助スキームといいますか、そちらの方も条件によって650円補助しますとか段階がいろんなのがあるもんで、おそらく一概に割引いた結果、いくらですっていうのは出しづらいんだろうなと思う。そうなるとうちのように変動は全部被らないといけないっていう状況になるのかなと思います。

委員長　自治体によって500円じゃないところもあるのか。

髙橋課長　利用料といいますのは、福育さんでも市の一時預かりとして市とこのアイビーエージェントと契約してくれっていうふうに県からきてます。基本的にはそこの事業者とうちとで利用料を決める。福育さんに限っては県内一律にしたいということで、県内どこもこの金額設定になってます。なので従来のうちのシルバーのスキームのすみずみ子育てサポートはちょっと県内では特殊なんですね。他の自治体ですと例えば、スーパーとかに預かる場所が併設されてると思うんです。そこで大体1時間いくらですよってなっている。例えば1時間1,000円を払って、あとこれだけ使いましたっていうのを各自治体に償還払いとして請求してるっていうのが元々やったんじゃないかなと思います。うちはそこがもうできないんで利用料を先に決めてしまっている。

北島委員　すみずみ子育てサポートは生後6ヶ月から小学校3年生までと書いてあるけど、福育さんはキッズ&ベビーシッターって書いてあるので、これ年齢的にいくつまでOKか。

髙橋課長　基本的にはうちの要綱がまず絶対となります。生後6ヶ月から小学校3年生までで、あとはそこの事業者がどの守備範囲までOKなのかっていうことになってまして、この福育さんも6ヶ月から見るっていうことにはなってます。ただ実際に動く福育さんが6ヶ月はちょっとっていうと、見てくれる人がいないとか、福育さん自体がどこまでできるかによって結構左右されたりもする。

北島委員　これ令和7年度版って書いてあるけど、8年度版作るのか。

髙橋課長　印刷予算は持っている。

野沢議員　　出産育児一時金、出産するときにもらえるお金っていうのはあわら市は何か独自にプラスアルファつけてたりとか、全くないのか。

髙橋課長　　これはあくまで妊婦のための支援給付金という、これは国の制度であり、そこにあわら市としての上乗せはありません。今妊娠すると5万円。

北島委員　　昔は40万円ぐらいやったのが高くなったのではないか。

髙橋課長　　出産一時金は、保険者が払うものです。これについて国保であわら市独自の上乗せがあるかは担当が市民課なのでわからない。国保で払ってないなら、支援策としてうちがやると思うので、多分ないと思う。

野沢委員　　他の自治体ではやっていないとか、自信をもってやっていることはあるか。

髙橋課長　　単純にお金をどんだけばらまけるかの勝負でいくと、当然勝山の18歳まで115万がもう飛び抜けてます。その次に池田町とかも一回あたりが大きい金額の何かを持っている。近隣で坂井市でもおそらく18歳までにそうやって受け取れる金額っていうのはあわら市の方がだいぶ少ない。一旦いくらもらえるんかなっていうのだけ表にしたときがあったんですけど、お金のところでは今言ったようにFirst Birthdayの3万円しかございません。これも他の自治体に比べていろんな名称で似たようなお金がいろいろと出てくるんでそれ以外ですと、給食費とかが先行してる。国の方も追随してしまっているので、いずれ横並びになってしまうのかなと思ってしまいます。

北浦委員　　あわら市の子育て支援は充実しているってみたことあるけど、実際のところそうなのか。

北島委員　　先行していた。例えば子供医療費18歳まで無料とか。他が追い付いてきた。

委員長　　何とかあわら市アピールしたいねって話で、実際どうなんだろうっていうのはやっぱり気になっている。僕も調べた感じではそんなに他市町と違わないんじゃないかと思う。その辺の肌感とかも、さっき言ったような金額ベースのやつとかも今オフレコなんで、ざっくばらんに話せるといいなと思ってます。サービスでもいいので。

髙橋課長　　県内ですと福育県って言ってる手前、県内はどんぐりの背比べ状態かなと思うんですね。県外と比較すると、福井県としては結構いろんなものが充実しているのかなとは思います。ただそれが、人の流れに影響するところまでは至ってない。それ以外の要素でいろいろとかみ合って出てきてる自治体はちらほらあると思います。この中ですと例えば学習支援教室って書いてありますけど、こういう細かいところですと意外と市の方がうまいことやれてるっていう感じはあります。ここで言う学習支援は二つあるんですけど、1つは低所得者用の福祉課がやってる学習支援と子育てが行っている1人親家庭のための学習支援、これイコッサの方でやってて低所得者の方は敬愛ですね。特にこの1人親の方ですと、うちはトライグループに委託しています。県内はどこも委託してないんです。自前で教員OBとかをあてているから、人を揃えるのが大変だと聞いています。みんなが手をこまねいているようなところを、次のフェーズ

に移っているっていうところは先行してる。ただ、支援策として先行してるかっていうと、受ける側からしたらそこまで体感では変わらないかなと思います。

関山委員　逆に子育て支援が充実して有名ですっていうところに奈義町ってところあるんですけど、そこ調べてみたんですけど芦原とそんな変わらんなって思いました。そこは出生率が 2.95 を出しましたって有名だったんですけど別にやってることは変わらないので、もう十分って感じは思ってます。聞きたいのが、奨学金返還支援事業っていうのを内容聞いてもいいですか。

髙橋課長　労働商工課になる。（市民協働課）

関山委員　これは人口減少対策チームが考えた事業だったとあったんですけど。

北島委員　1 人親、シングルマザーとか本当に育てやすいと思う。

髙橋課長　ちなみに人口減少とは別だと思うんですけど、世帯に子供が 1 人いるのか、2 人しかいないのか 3 人しかいないのかっていうところをちょっと調べてみたんですけど、割合的に言うと、昭和 61 年ぐらいまであって、1 人しかいない家庭が 35.2%、2 人いる家庭が 48.2%で 3 人以上が 16.6%という割合だったんですね。最近はどうかっていうと 1 人しかいないが 47.6%で 2 人が 39.2%、3 人以上が 13.3%。ただここで根本的なのが、子供がいる世帯自体がもう半減している。（数字は数か割合か）

今のは割合で、その子供がいる世帯に限っての構成といいますか。子供が今からまた戻ってきたりするのっていうことを言ったら、そこは結果論になる。でも子供がいる世帯あたりの子供を何人持つかの割合はそこまで変動せんのやなっていうのがわかり、全国とあわら市のそれとそんなに変わらない。例えば 10 年前子供が 3 人いたって、みんな 18 歳以上になってしまえば、1 人しかいいない世帯にカウントされるっていうこともある。子ども 1 人の家庭の割合が増えていくっていうのは 1 人しかいないからではなくて、残り 1 人になったっていうことが圧倒的に多いと思う。

（あわら市の出生率は？）あわら市の出生率はわからない。

南議員　ひとり親を対象に学習支援室はイコッサでしているとのことだが、現在何人利用しているのか。

髙橋課長　定員２０名でやっているが、大学生を雇っているが、およそ 10 人くらい利用している。小学校の子もいる。効果としては思っているほどではないが、来ている子には役に立っていると思う。

南委員　毎日行われているのか。

髙橋課長　年間 30 日開催しましょうとなっている。

日曜の 10 時から 12 時まで午前中になる。

卯目委員　父子家庭、養子等も対象なのか。

髙橋課長　対象である。名称を一人親に変更している。一人親等になると祖父母とかにもなる。

関山委員　　病児保育について、預けると感染するのが怖いので預けていないが、どうなっているのか。

髙橋課長　　うちが委託してるのが金津産婦人科クリニックで、一応定員も設けてます。流行的にみんながインフルエンザであれば、一緒でいいんですけど、ちょっと前ですとコロナというのがありまして、例えばコロナの子を受けたら、インフルエンザの子はちょっととかっていうのは現場サイドで判断してやってもらってる。病気が2種類なら何とか分別していけるよっていうのも、現場の判断になります。ただ万が一そこでうつってきたんだと言われても、そこはなにか保証してくれるものではない。働きに行くから預けたいっていうのを応援するための制度と考えてもらえればいいのかなと思う。うち以外でも、坂井市の病児病後児も使えるような体制にはなっておりますので、例えば金津クリニックでいっぱいだと言われれば、坂井市のつちだ小児科とかも利用できる。

関山議員　　2人目が生まれて、家庭で見ますみたいな時、保育園で1人目を預ける時間が短縮になるじゃないですか。1歳、2歳とか預けてるのが帰る時間早くなったりするじゃないですか。4時までのところと2時半ぐらいまでのところ、あるかなと思ってるんすけど、そこら辺ちょっと詳しく教えてもらえないか。

西田補佐　　多分、こども園に子供が入るときに、保育の認定っていうのをかけるんですけど、それが標準の認定なのか多分短時間の認定なのかっていう違いでおそらく4時が短時間の認定になるんで2時半っていうのはあんまり聞いたことはないんですけどね。

髙橋課長　　おそらくこども園自体でその時間って変わるんですね。例えば、7時半から預けてもいいよっていうのところはそこから8時間かな。始まりが遅れるとそれだけのびる。これは園で決めてもらうんですけど、認定というところで点数化して何時間利用できるとか、そういうふうになってきますのであくまで、条件としてどこまでクリアできているかによって、それが短時間でしか利用できないのかとか、長時間なのかは変わってくる。今おっしゃった結構前倒しっていうと、こども園の園長さんの方針として、家で見てあげてくださいよという園もなきにしもあらずと聞いております。そこら辺を僕らもなかなか園の方針なので、よほどクレームがあれば僕らも園の方に対して駄目ですよと言いますけど、あとはそれでもそこの園に行きたいんやという保護者とこども園とのマッチングで成立しているので、あまり介入しないようにはしてます。

野沢議員　　産後ケアみたいなのを力入れてる地域、例えば杉並とかは、そこにすごく力を入れてて、杉並では2泊3日、宿泊のクーポンがもらえるから、それを使って、そういうマッサージをしたりとか、宿泊もできたりするみたいなことを言ってるんですね。福井県も産後ケアやってると思うんですけれども多分使える。生まれてから何ヶ月以内にっていうのが短かったりとかしてるのかなとか思うんです。産後ケアも福井県としてやってる一般的なことをあわら市はやってるっていうことですよね。

髙橋課長　施設自体が近くにあると利用しやすいと思うが、あわら市でやろうと思うとなかなか難しい。

野沢議員　社会的に産後うつとかが問題になっていて、赤ちゃん訪問とかがあると思うんですけれども、これを例えば横の繋がり、例えば7月に子供が生まれた家庭を繋げるとか、親同士を繋げる、お母さん同士を繋げるような取り組みっていうのはされてるんですか。

髙橋課長　子育て支援センターでは今月誕生日の子とかっていうようなことはやったりしてます。ただ新しく生まれた子っていうのは年間100人もいないんで、毎月1桁10人未満と考えると、絶対数が足りない中で、そういうのを展開しても、相性も当然あると思います。そういう方々が定例的に会うっていうと健診のときに、いろんな講座とか教室をやった中で、お互いが率先して仲良くなっていくのかぐらいなのかなと思う。産後うつとかっていうのはクリニックさんとかで、点数化して、この人は鬱の危険性がありますよとか、そういった情報共有はこちらの「こあらっこ」ともしている。危ないなとか、基準を超えてるなっていう過程で、直接アプローチかけてたりはしてます。現場の状況をちょっと監視しながらという形です。

関山議員　関連で、同世代の人が集まるのがチラシの4番のママパパ教室っていうのと、15番のもぐもぐ教室は、同じ月齢の子が集められて、接する機会はあるんですけど、そんな仲良くなるようなもんじゃないですね。ワイワイするようなお茶会みたいな感じなんですね。うちの場合は保育園の発表会とかで、たまに会うことが多いっていうのと、ママ友できやすいのは、小学校入って、習い事とかしたときぐらいからできやすくなるかなみたいなのは聞いたことあります。

北島委員　パパ支援デーはどれくらい参加するのか。

髙橋課長　10人前後ですか。職員自体もそういうのに参加するような傾向にはあるみたいですね。ただパパの参加する機会は最近、意外とニーズがあるのかなとは思います。

南委員　心の相談の臨床心理士による相談会にはどれぐらい受講してるんですか。

髙橋課長　これも事業自体はうちじゃない。福祉課か健康長寿課のどちらかで青年とかも含めた上での心の相談である。

子育て支援課としてのフィールドになると、保育カウンセラーになってくる。

南委員　保育カウンセラーはどこかにあるのか。

髙橋課長　ここの中には特段入ってません。あくまでこども園の中で、どちらかというとこちらの方から誰かいないですかとか、実際に見てみてとか、こども園の保育士からの情報提供とかそんな役割になってきます。

関山議員　お金があったら、どんな企画がしたいか。考えていることはあるか。

髙橋課長　今子育てしている人にお金を出すなら、お金がかかるようになってから、多分大学とかからなんだろうなと思います。ただ、大学も県内ですと、片手ぐらいしかない。それ以上のレベルを目指そうと思うとどうしても県外に行く。そこにお金を市が提供

しますと言っても、戻ってくる可能性はかなり低くなるんですね。お金をばらまいた結果、何を求めるかによると思うので、あくまで子育てをサポートしますよ、結果はどうあれっていうんであれば、そういう価値において、何かをやってくっていうのも一つですけど、何を目指すのか、子供が行って帰ってくるのを目的とするのか。そもそもパイを増やそうっていうのかで、やることは変わってくるのかなとは思います。なので今の子育て支援事業としてっていうと、どこにお金をかけても、今の子育て世代が楽になるだけっていうことかなと思います。

委員長　たくさん議論が出るんで、非常にありがたい機会だなと思ってます。

退室　午後２：５０

三上委員長　非常に参考になったなと思うので、さらに、進んでいきたいなと思います。では残りの時間で次に繋がる話をしましょう。次回はもう１回教育の方の話になります。4月10日の午後１時半からありますので、教育グループと相談して、どのようなことをヒアリングするのか、何を聞くのかって話をご相談させていただきたいなと思います。前回、僕の方に宿題があって、優先順位、つまり何をしていくのかの重要度みたいなものを区切ってほしいとか、ゴール設定をしたいよねっていう話があって、僕やりますって言ったんですけど無理でした。無理でしたので、次回にそれは提示させていただき、相談させてください。優先順位付けをして具体に向かって進んでいくような流れを作ろうと思っております。視察に関しましても焦っても仕方ないということで、最短でも６月議会後かなと思ってます。例えば７月とか。

そろそろ必要だなと思ってるのは、政策をいろいろやってるところがあって、その効果も出てたりするんです。例えば検証してたように教育予算突っ込んだら人は増えるのかとか、そういうデータって実はもうある程度あるような気がしているので、そういうところを我々はチェックしていって、つまりこれはこうやっても意味ないよとか、これは可能性あるよとか、そういう議論をエビデンスベースでした方がいいんじゃないかなと思っています。だから今後は、聞いたり新しいのっていうのは、いろいろと見てきてる気がするんで、深掘りですよね。政策を考えていく中で、価値があるものって何だろうかとか、チャレンジすべきものは何だろうかみたいなことを結果を踏まえて議論をしていったらいいかなと今思ってます。それもゴールやロードマップみたいな話のところで次回ぜひ議論をさせていただきたいと思っております。ほかになにかあるか。

南議員　今言われたお金を突っ込んだら増えるものっていうのは、人口が増えるものっていうことですか。

三上委員　つまりその効果があるかどうか、もちろんその効果っていうのは目的があるわけで、これをやったらこういう目的が達せられるかどうかみたいなことを検証した結果っていうのも実は結構あると思っていて、それが要因はわからないけど結果が達成されたとこもあるわけで、奈義町とかはやった結果、出生率増えたんですけど、なんで

なんかとかね。そういう因果関係みたいなものがある程度わかるところについて調査すべきかなと思ってます。

南委員　人口では、人口が増えるということではなくて、何かいい効果があるという、そういうエビデンスがあったら、そんなのを披露するということか。

三上委員　別に人口だけにこだわらず、人口減少対策に関連するものにしたいですけれども、その上で、よくこの政策をやったらいいよって言うんですけど、でもそれはもうやっているところがあって、それがある程度結果も出ている自治体もあるわけで、そういうものに着目した方がいいんではないかということです。我々はアイディアはぱっと出ますけど、それが実はもうこうだよっていう話もある程度あるんじゃないかなと思ってます。例えばシビックプライドがすごい醸成されてるところは一体何が要因なんだとか、これをやった結果こうなりましたとか、いろんな自治体が取り組んでるわけですから、そういう因果関係みたいなものを少し追いたいなと思ってます。

関山議員　グループ分けで自分の分野について調べていくっていう流れでいいですか。

三上議員　今のはとりあえず話題提供ということだったんで、次にそれを明確にどうしようかと思ってたんだけど、今の目線っていうのが、いいですねという話になるんであれば、例えばそのグループごとに、そういう部分を少し調査するっていうことをしてもいいと思ってます。

副委員長　以前、北島議員から回していただいたハンガリーの事例は、今までの視点と変わってるんで、あれは今話題提供として見てる形にしてるんですけど、結果としてそうなっているのは理解できた。この委員会としてはどう取り上げていくべきなのかなっていうふうに思うんですけどどうですか。

北島委員　政策を打って、一瞬飛びついても、それが当たり前になってしまう。だから現状、日本の国もいろんな施策を打っていい状態だけど、今から子供産む人にしてみたら、当たり前になる。だから全然いいように見えてない。

副委員長　今回していただいた、あれも踏まえた中で、どういう成果が出てるかっていうことを見ていこうっていうことになるんですか。そこら辺は全部含めるっていう意味でおっしゃったんですよね。

三上委員　まさにミクロもマクロもこの話ってあると思っている。時間の尺度も存在するんで、一時的にこれいいなって、例えば勝山とかって一時的に突っ込んでいるわけで、それがもしかしたら今はすごく良くなるかもしれないけど、これからはどうなのかがわからない。我々はどちらかと言えばアイディアベースで進めてたんですけれども、それを検証ベースにちょっと移行したいなという思いがあります。

北島委員　前も言いましたけど、子供に関わる予算が、福井県は1位。でも47位の長崎が（修正率では）確か福井とそんなに変わらんとこにいた。だから、長崎はどんなことで出生率を上げている効果が出てるんかっていうのが逆に知りたい。ただわからないっていうことだったらしいです。風土っていうところで落ち着いたらしいです。

三上委員　　インパクトファクターみたいな形で、少し我々がそれを肌感で調査をしながら、それが本当にわからないとするなら我々も行ってみないとわかんないかもしれないじゃないですか。そういうのも含めてまず我々が調査しましょうということです。

野沢議員　　私、市民の満足度の指標っていうのは大事じゃないかなと思っていて。結局、市としてこれしてますって言っても、住んでいて実際に利用している方たちがすごい満足感が高いところがやっぱり成果なんじゃないかなと思うんです。そういう市民の子育て環境の満足度が高いところっていうのをちょっと知りたい。同じことをやっていても、深掘りすると、中身や質が違うんじゃないかなと思っていて、そこを調べるのは面白そうかなと思う。

三上委員　　非常に大事だと思うんで、多分市民アンケートそういう項目あるんでぜひ野沢議員の方でも少し調べてみてほしい。福井県ぐらいならすぐ調べられるんで、ぜひ情報提供をいただけるとありがたいなと思います。

北島委員　　あわら市は税金高いけど、坂井市の方が税金安いっていう話を聞いたことある。確かに国保やら上下水道料金は若干高い。でも税金はどこも一緒。でも、噂が流れ続けている。だから満足感を調査するときに、こんな噂が流れてる以上なかなか難しいです

関山委員　　九州の話について、九州の人からちらっと聞いたことあるのは、家族仲がいい傾向があるという。5 人、6 兄弟とか結構多いっていう話は聞いたことあります。さっきの風土っていうのが、子育てに関する考え方がちょっと違うんかなみたいなのは感じたことはあります。それも行ってみなければわからん話です。

委員長　　でもそこだけ違うようなものを比べられると本当はいい。

関山委員　　市民アンケートについて、政策広報課のアンケートで子育てに充実していると思う割合みたいなのあったが、あの説明の中で「わからない」が多く、わからないは省いて考えますみたいな説明があったんですけど、僕が思ったのはわからないってことは、つまり、子育てが自分ごとじゃない人が増えてますよっていう意味なんかなって思ったりするです。

委員長　　あれはそもそも子育て世代じゃない人が入ってる。

関山委員　　無作為とはいえ、そういう情報が入ってこないというか、いい話をきかないとか、自分のことになってない人が増えてきてるっていう意味でもあるのかなと思う。

委員長　　若年層の割合の減少と補正をかけないと出ないと思う。

関山委員　　だからおじいちゃんおばあちゃんでも、関係ないわっていう人が増えてるかな。そういう意味で、自分ごとじゃない人が増えている可能性は高いなと思いました。

南委員　　何かやっても平準化されてしまうっていう話がありましたが、星野リゾートの会長さんが講演で、それはコモディティっていう現象でそれを突破するためには、やっぱ視点を変えないといけないといっていて、いくらやっても所詮 1、2 年で追いつかれてしまう。そうすると、僕らが今やってる人口減少対策っていう視点が、もう人口減

少対策っていうことは不可能なんじゃないかと思う。だから、それによる関係人口を増やすっていうふうな観点で、違う視点で議論したらどうかなって感じた。

三上委員　　確認なんですけど、ここでは別にその人口減少対策とか出生率を増やそうとか、人口を増やそうっていうだけにとらわれないという前提をそもそも持ってます。関係人口を増やして、人は減るけれども豊かに暮らせますっていうのが我々の主題でもありますから、ここはそういう広い範囲で我々がどう幸せにやっていけるか、人口減少という現象をどのような形で乗り越えられるのかってことを議論する委員会なので、今南議員がおっしゃってるようなことをやりたい委員会だと思っていただきたい。

北浦委員　　今まで出てきたハンガリーの支援策であまり効果は出ていないということがあって、それに何が必要なのかっていうことで読んでいくと、年寄りになると、年金などがあって自分の生活がある程度保障されている。だけど今結婚前の若い男女にすると、結婚することについてある程度リスクがあると思ってるところがあって、そのリスクを解消するためには、年寄りの年金と同じような経済的な負担が少なくなるようなそういったものがあれば、私も結婚してみようかな、経験してみようかなっていくんだけど、今はそのリスクがあまりにも大き過ぎて、若い人たちはなかなか結婚、子育てっていうところに踏み込んでいけないんじゃないかというところを視点的に見直してはどうかっていうことを書いてあった。そうすると前にここで取り上げた企業誘致をして、働けるところがたくさんあって、将来、結婚しても子育てが楽にできるんだよと繋がっていくし、また、いわゆるマッチングも相手を探すっていう話はそれを考えると、そこに書いてあったことは、今私達が手分けしてやろうという中で、みんな関連があるっていう気もしてきた。そういう切り口で入っていけばいいのかなっていう気がした。だから今やってることは非常に関連があるので、住みやすい地域があり、子育てしやすい地域が、環境があれば、リスクがあっても、周りの人が見てくれるっていうリスクの解消に繋がる。だから今グループにわかれてやってますけど、それは全部関連してくる。今までの子育て支援策とは別に、そういうのをやっていけばいいのかなというふうに私は思う。

三上委員　　そういう目線が重要だと思ってます。あとは、それをどう見せていくかみたいな話に多分将来的になっていくんだろうなと思う。出口までここで議論ができたらいいし、何が関係してるかまで、ちょっと手を広げて見ていくべきだとは思ってますんで、ちょっと大変ですけど引き続き追っていきたいと思います。ただ優先順位みたいなものは少しずつとは思うんで、広く持ちながらも、これをまず話しましょうとかこれを調べましょうとか、こういうことを仕上げましょうっていうことは、目標としては持っていくべきなのかなとは思ってます。

次回は４月１０日、４月２１日にする。

４月１０日は教育のヒア、その後は優先順をつけてやっていく。

議事録と要点筆記は公開したいなとそろそろ思ってます。実は今ホームページで公開先がないんです。特別委員会のページもない。今、広報委員会でどういう章分けにするかっていうのは考えてはいるんですけど、それ待ってるとやっぱり遅くなりそうなんで、こちらで１個作っておいて広報で作ったらそこに移行します。ホームページ上に人口減少対策特別委員会ということで、議事録はせめてもうアップしたいなと思ってますので、その作業だけちょっとさせていただきたいなと思っております。議事録に関しては皆さんに一度当てて、数日期間をもらってOKならばという形での公開にしようと思ってます。そのような形で進めていくと認識いただけると幸いです。本日はどうもありがとうございました。